

考古学が立証する 富山県西部の地震歴

中江紙製
考后



大地ヨリ水ヲ噴ケル
図



大震動ノ御逃退ノ図

令和7年8月9日(土) 於:となみ散居村ミュージアム
(公財)富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査課
副主幹 越前慎子

古地震の記録

• 416年8月23日（允恭5）

日本書紀

「地震（なみふる）」初見

第19代允恭天皇の治世5年目の地震。氏姓の乱れを正すため甘檜丘で盟神探湯（くがたち）を行ったことで知られる。陵は、大阪府藤井寺市古市古墳群（世界文化遺産）のうちの市野山古墳。



古地震の記録

- 599年5月28日（推古7）

日本書紀

「推古天皇七年夏四月乙未朔辛酉
地動。舎屋悉破。則令四方、祭地震神。」

⇒地震の被害の記述として最古。

聖徳太子伝暦

春三月。太子候望天氣。奏曰。応致地震。即命天下令堅屋舎。夏四月。大地震。屋舎悉破。太子密奏曰。天為男為陽。地為女為陰。陰理不足。即陽迫不能通。陽道不填即陰塞而不得達。故有地震。陛下為女主居男位。唯御陰理。不施陽德。故有此譴。伏願徳沢潤物。仁化被民。天皇大悦。下勅天下。今年調庸租税竝免。



推古天皇（554－628）

『推古天皇像』土佐光芳筆 叡福寺蔵

古地震の記録

• 684年11月29日（天武13） 白鳳地震

日本書紀

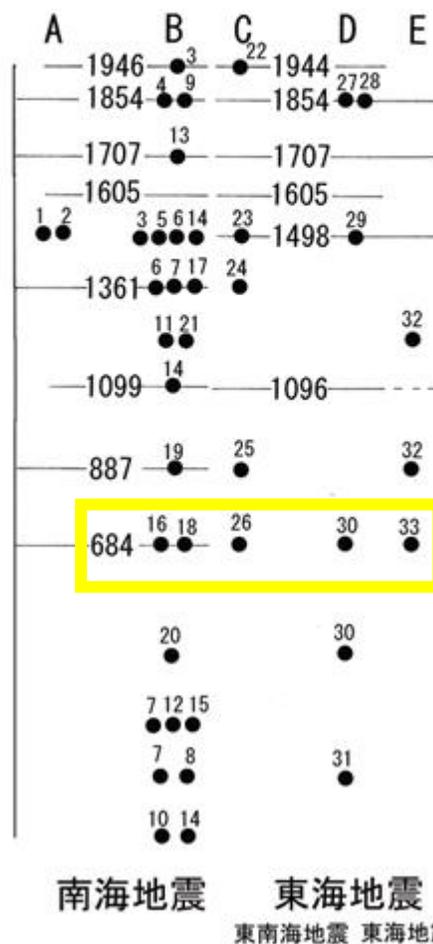
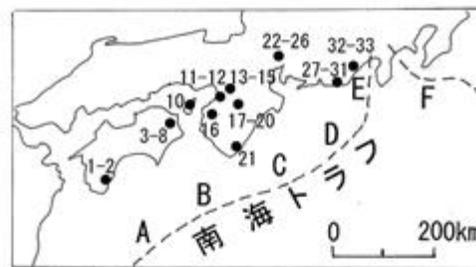
壬申。逮于人定、大地震。挙国男女吠唱、不知東西。則山崩河涌諸国郡官舎及百姓倉屋。寺塔。神社。破壊之類、不可勝数。由是人民及六畜多死傷之。時伊予湯泉没而不出。土左国田苑五十余万頃。没為海。古老曰。若是地動未曾有也。是夕。有鳴声。如鼓聞于東方。有人曰。伊豆嶋西北二面。自然增益三百余丈。更為一嶋則如鼓音者。神造是嶋響也。

土佐国史の報告

庚戌。土左国司言。大潮高騰。海水飄蕩。由是運調船多放失焉。

山崩れ、液状化、諸国の官舎、家屋、社寺の倒壊、人畜死傷、伊予湯泉の湧出が止まった。津波により土佐の船多数沈没、田苑50余万頃（約12km²）沈下して海没。

記録による土佐や伊予の被害の様相から南海道沖の地震と考えられていたが、発掘調査により、ほぼ同時期に東海道沖も震源域となった可能性が推定される。 ⇒ 史実上最古の南海トラフ地震



南海トラフからの巨大地震年表 (寒川2013「歴史から探る21世紀の巨大地震」)

西暦は文献史料から求めた地震の発元年。数字は遺跡で見つかった地震痕跡で、上の図の●は遺跡の位置、下の図の●は地震痕跡の年代を示す。

- 1 アゾノ 2 船戸 3 宮ノ前 4 神宅
- 5 古城 6 中島田 7 黒谷川宮ノ前
- 8 黒谷川郡頭 9 志筑廃寺 10 下内膳
- 11 石津太神社 12 下田 13 池島・福万寺
- 14 瓜生堂 15 志紀 16 川辺 17 カヅマヤマ古墳
- 18 酒船石 19 平城京大極殿回廊跡
- 20 赤土山古墳 21 川関 22 東畑廃寺
- 23 尾張国府跡 24 門間沼 25 地蔵越 26 田所
- 27 御殿二之宮 28 袋井宿 29 元島 30 坂尻
- 31 鶴松 32 上土 33 川合 (1～33は遺跡名)。

地震考古学

- 1988年 寒川 旭氏が提唱

(通産省工業技術院地質調査所、 独立行政法人産業技術総合研究所 を歴任)

- 東北大学大学院生時代に古市古墳群 誉田山古墳の空中写真で墳丘の崩壊跡に連なる断層崖を発見、1984年に研究発表

- 「地震考古学」の名称は奈良国立文化財研究所 佐原 眞氏の発案

1988年、日本文化財科学会と日本考古学協会
で地震考古学を提唱

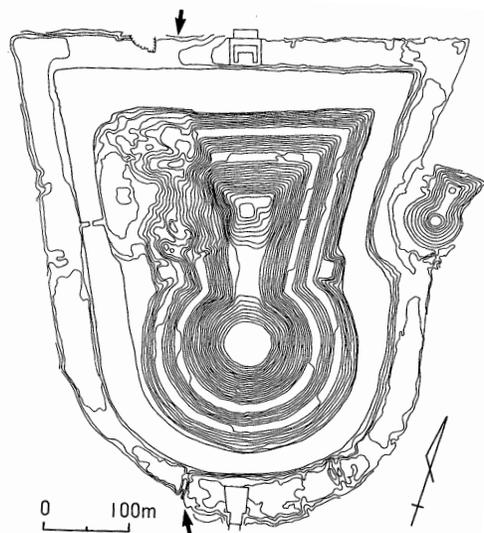
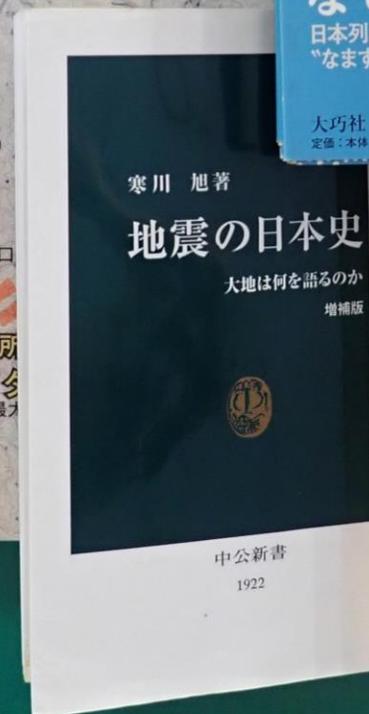
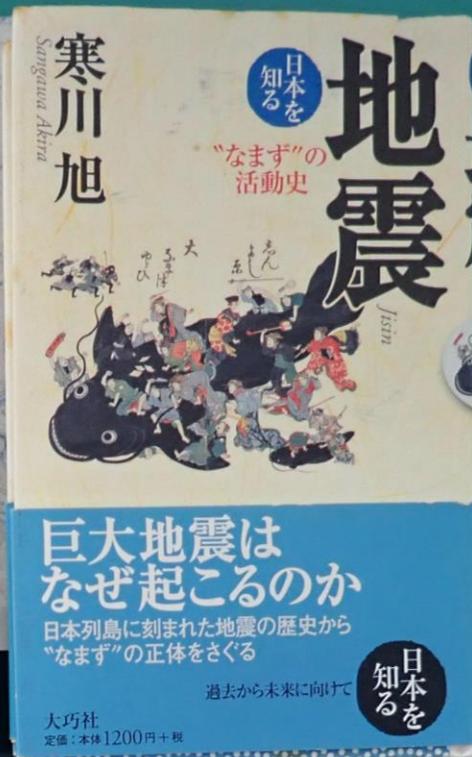
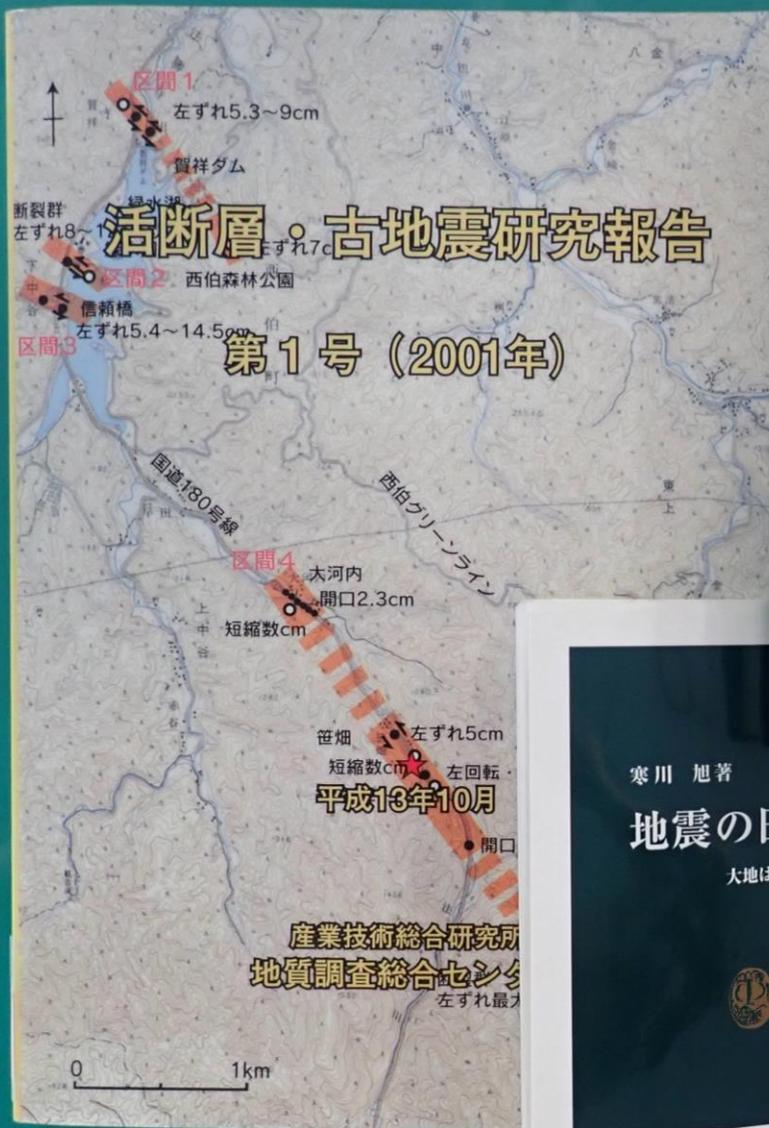
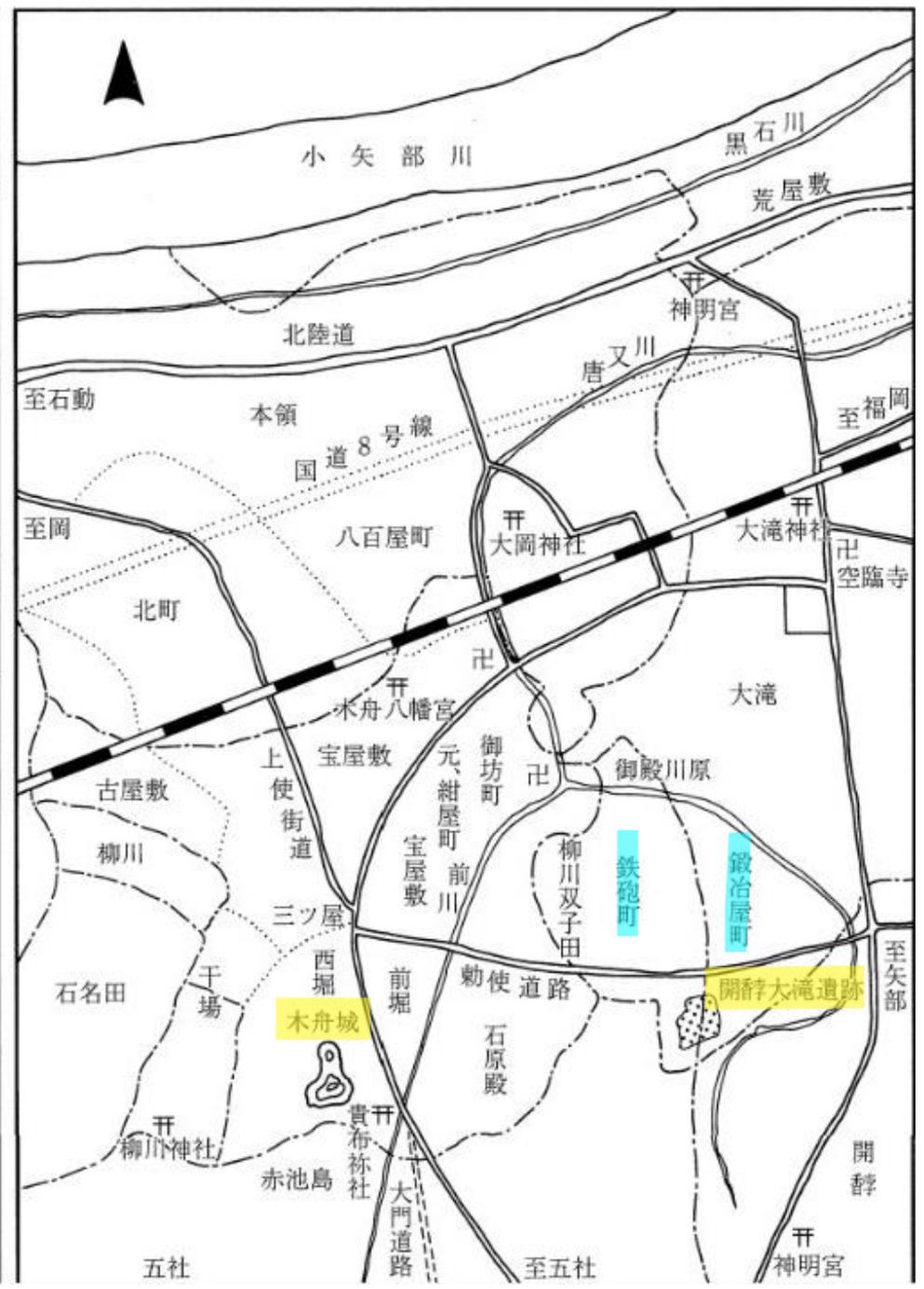
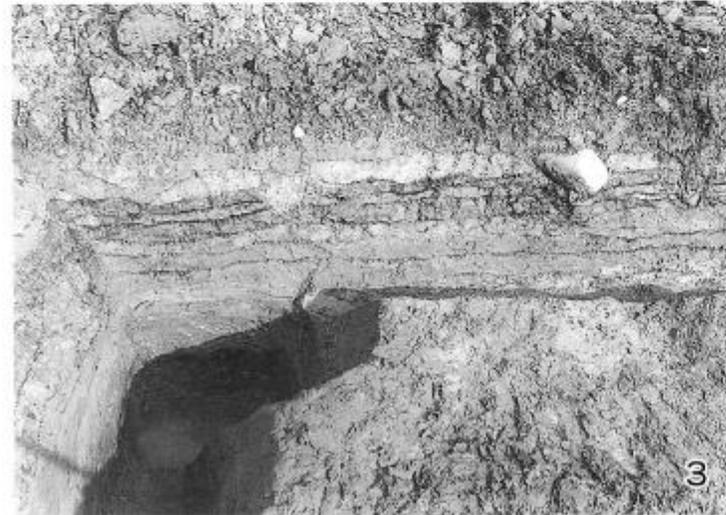


図1 誉田山古墳と活断層。



天正地震により倒壊した木舟城と城下の遺跡





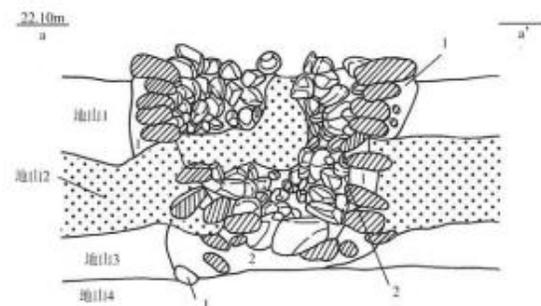
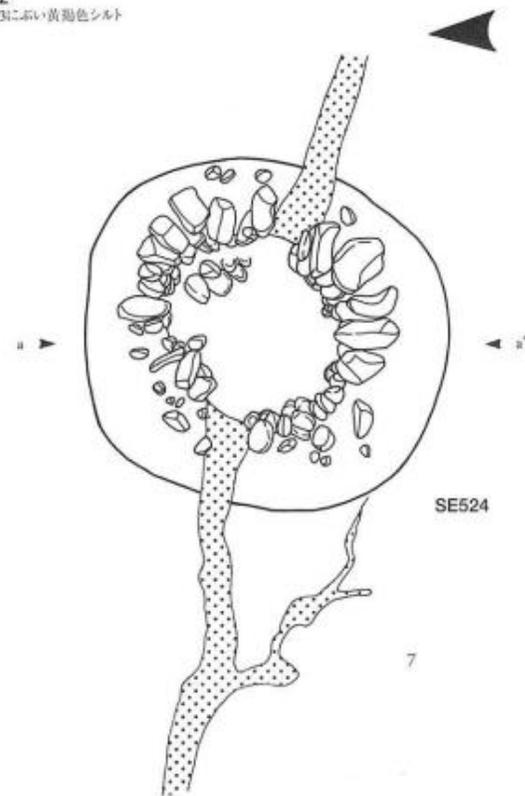
木舟城跡出土遺物と範囲確認調査の状況（トレンチ調査）

福岡町教育委員会2002「富山県福岡町木舟城跡発掘調査報告一範囲確認調査報告」



SK522

1. 10YR5/3にぶい黄褐色シルト

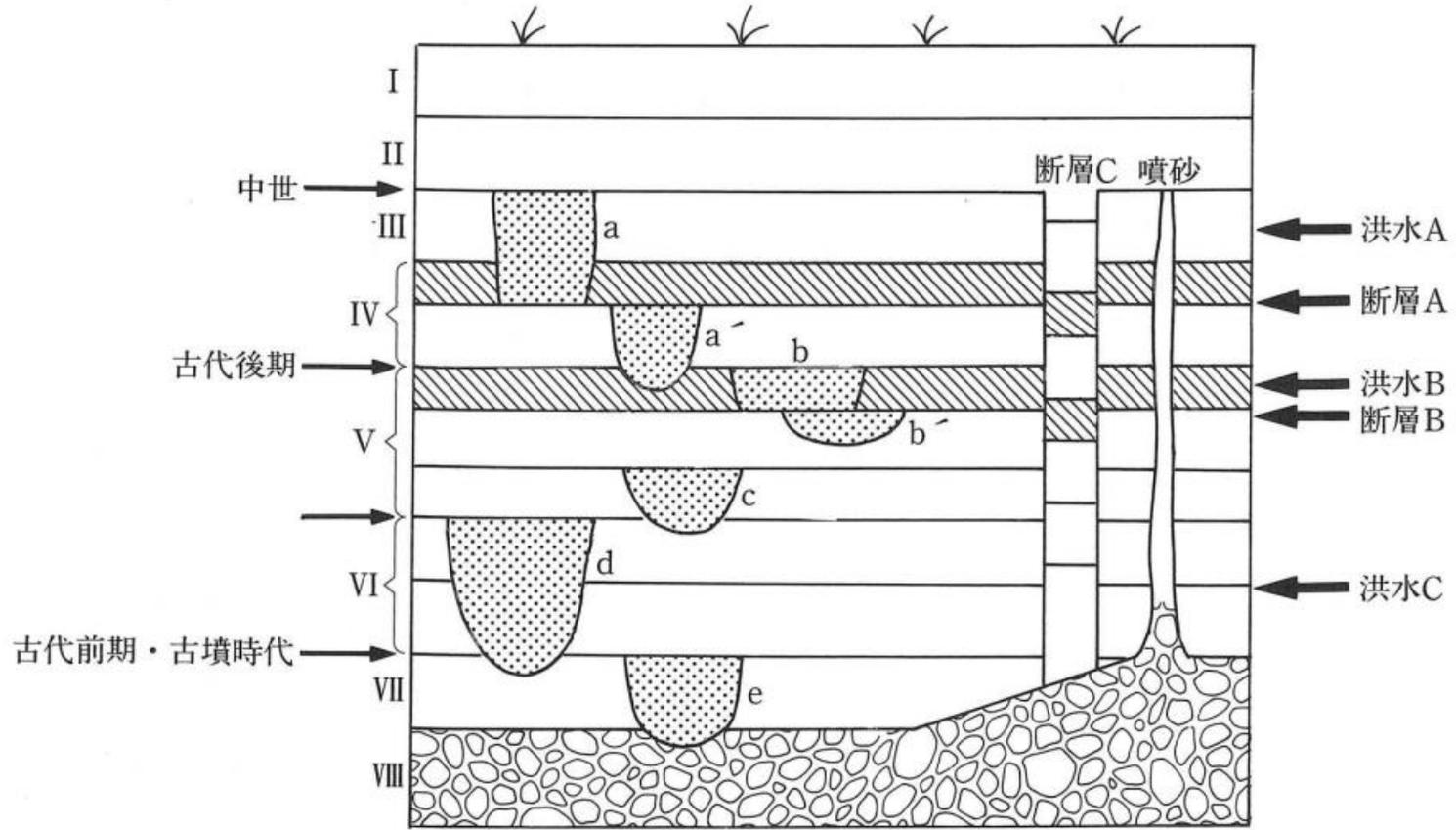


SE524

1. 10YR3/3暗褐色シルト(砂10%混)
2. 5Y7/2灰白色砂礫(砂50%・礫混)
- 地山1. 10YR7/6明黄褐色砂礫(砂80%・礫混)
- 地山2. 10YR7/4Lにぶい黄褐色砂(噴砂)
- 地山3. 10YR5/6黄褐色砂礫(砂40%・礫混)
- 地山4. 5B/G/1青灰色砂



高岡市開醇大滝遺跡 石組井戸を引き裂く噴砂の砂脈



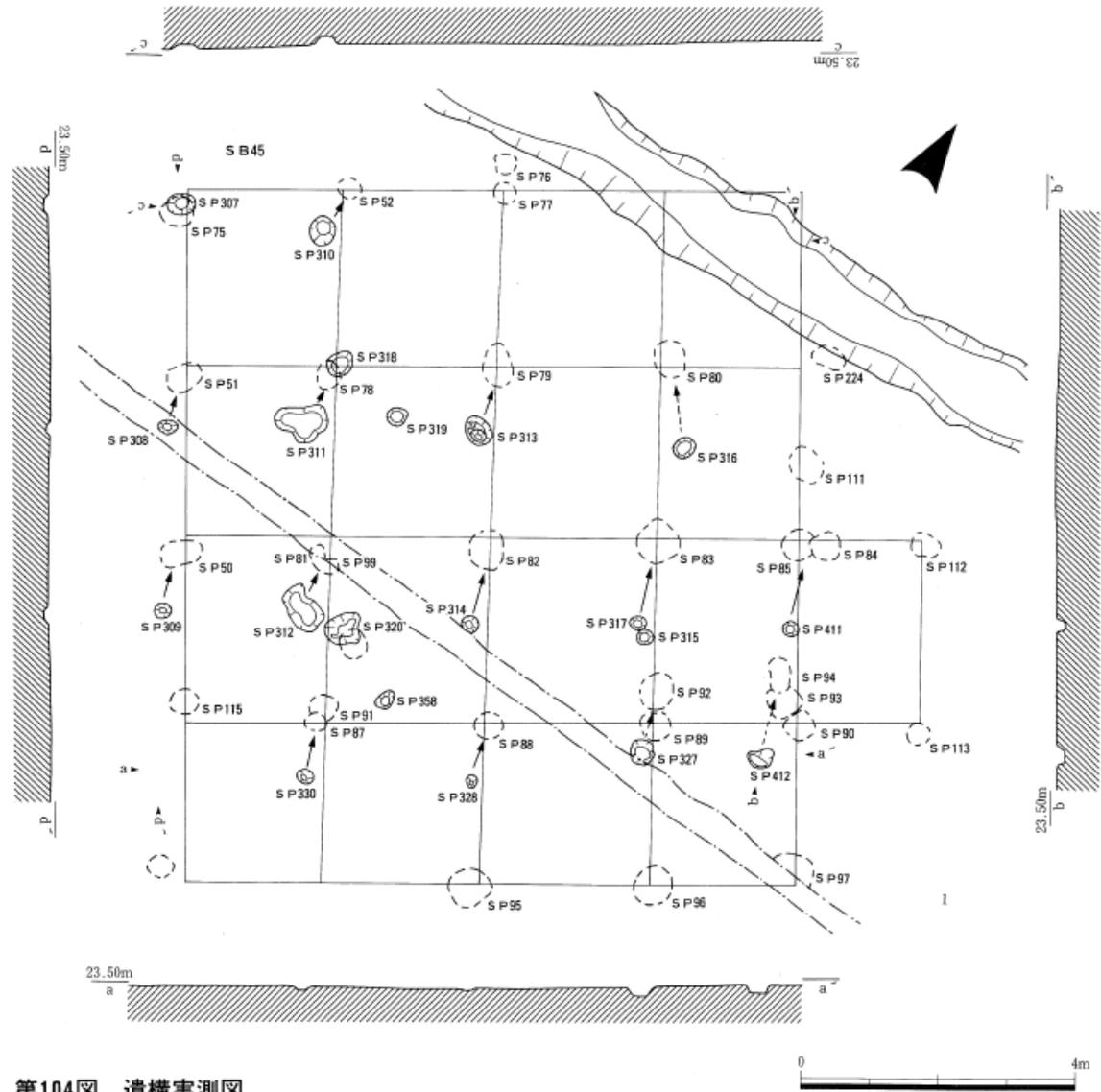
第4図 基本層序模式図

小矢部市五社遺跡 たび重なる洪水と地震の災害の痕跡が残されている



中世の掘立柱建物の柱の下部が、古代面で北東側120～150cm、南西部で約80cmずれて検出された。

水平方向の断層による遺構の変形（五社遺跡 12～13世紀の掘立柱建物）

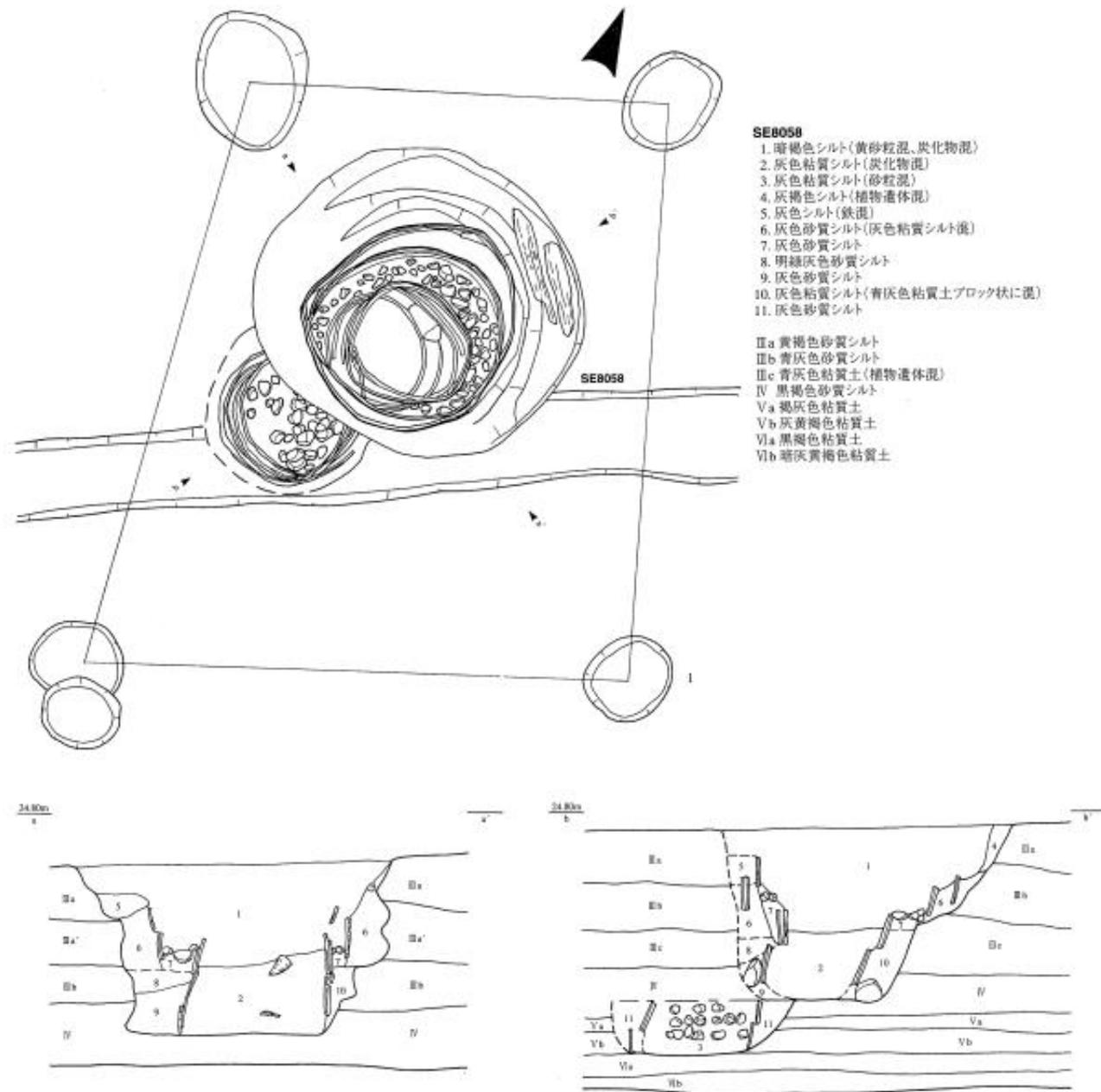


第104図 遺構実測図



6段の曲物を積み上げた井戸が4段目で約50cmずれている。

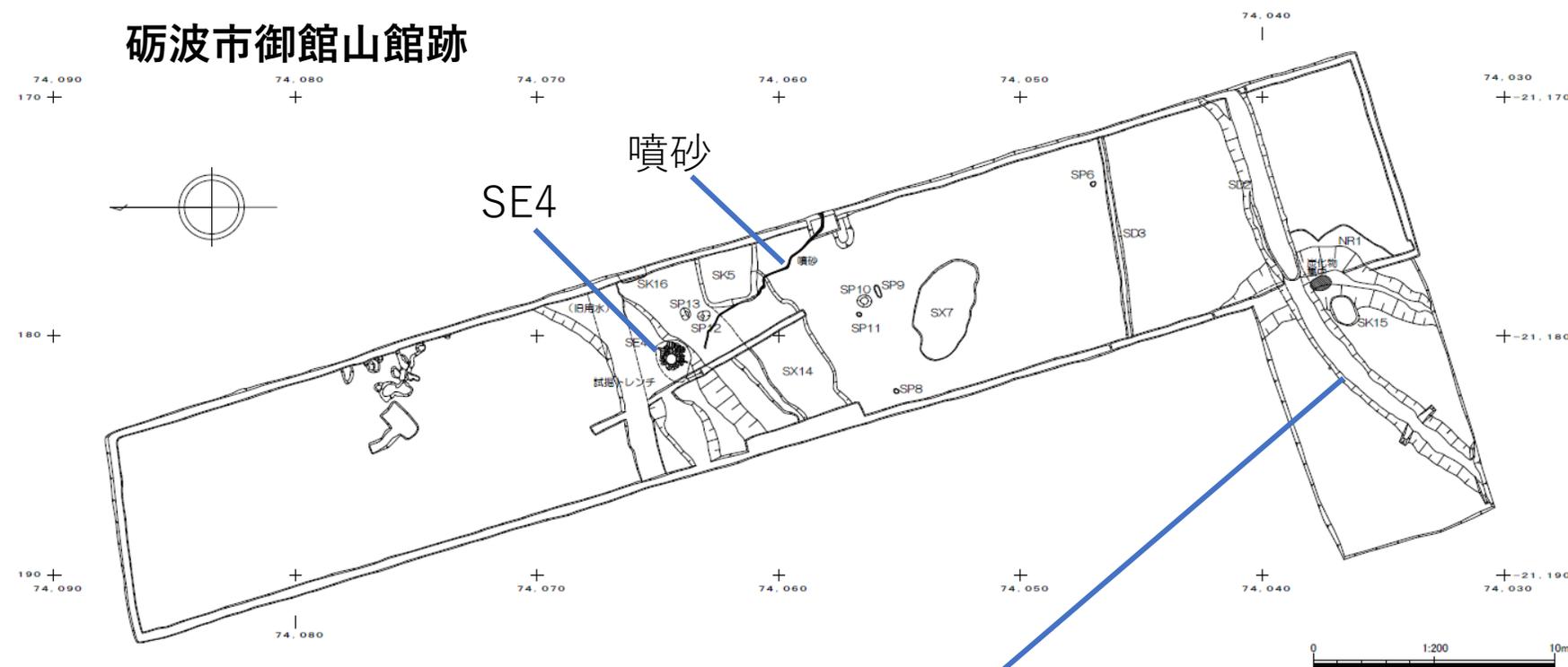
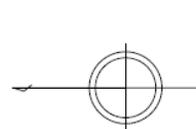
水平方向の断層による遺構の変形（五社遺跡 井戸）





欠損部分
I a層
I層
180 +
II層
190 +
74.090
III-1層
III-2層
III a層
IV層
V層

砺波市御館山館跡



SD2 (土罌を備えた空堀か)
埋土を噴砂が切っており、1582年の落城から1586年の天正地震の前に埋められたか

SE4 (石組井戸)
地震による地層の変形後に造られている。16世紀の越前甕が出土。

富山県の活断層と地震痕跡が見つかった遺跡

富山県の主要活断層帯

- ① 跡津川断層帯
- ② 牛首断層帯
- ③ 庄川断層帯
- ④ 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯
- ⑤ 魚津断層帯

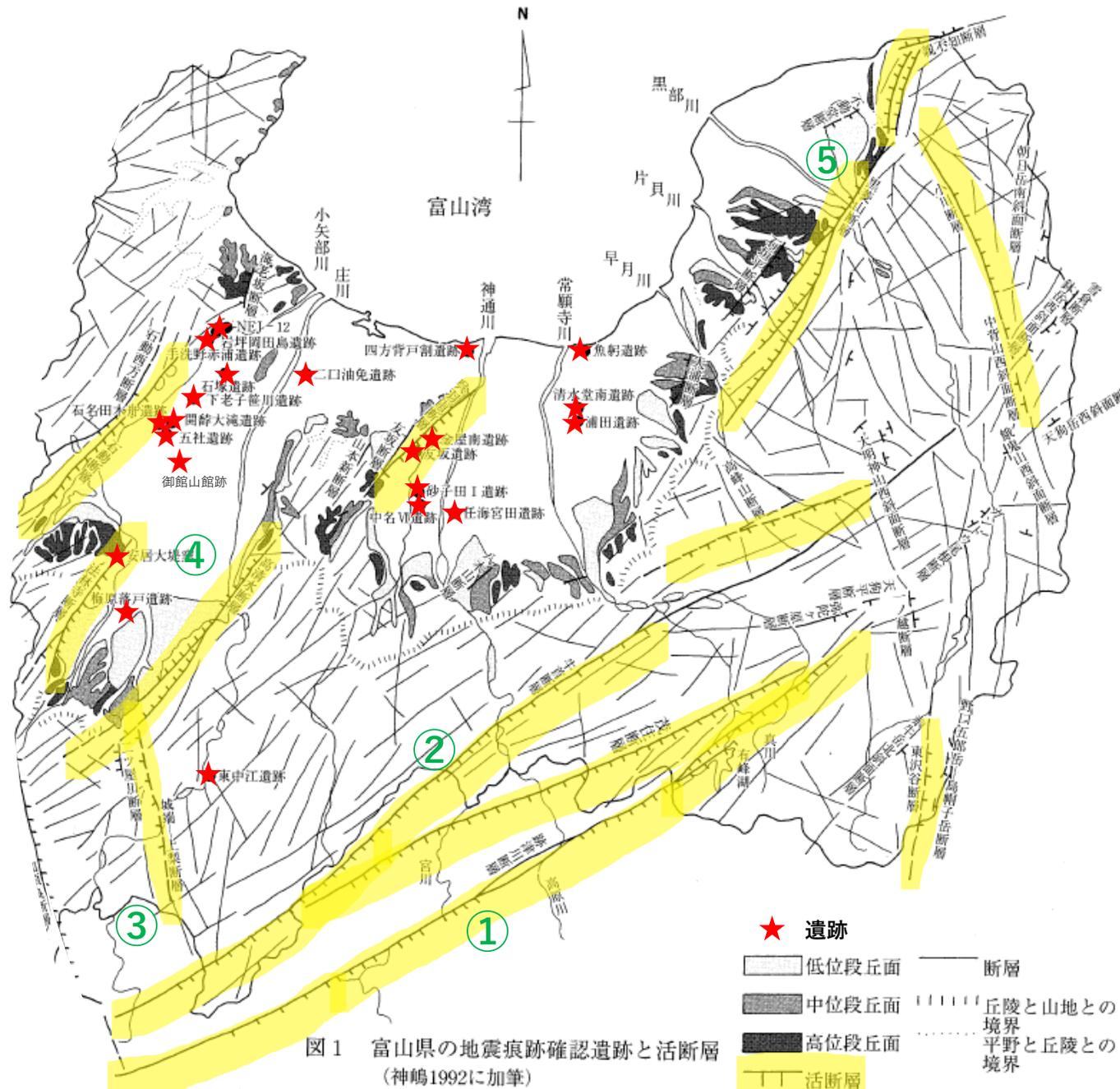
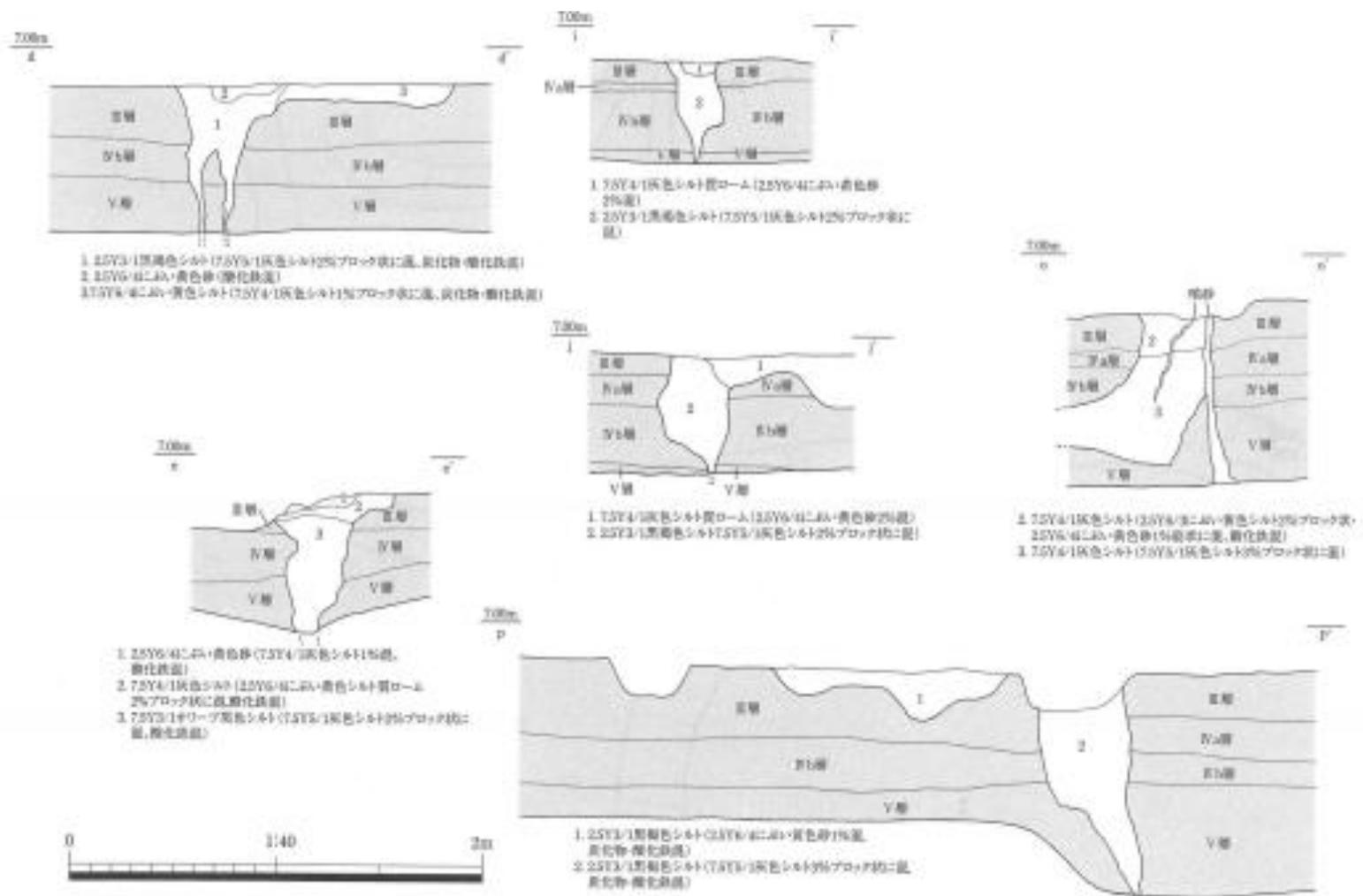


図1 富山県の地震痕跡確認遺跡と活断層 (神嶋1992に加筆)

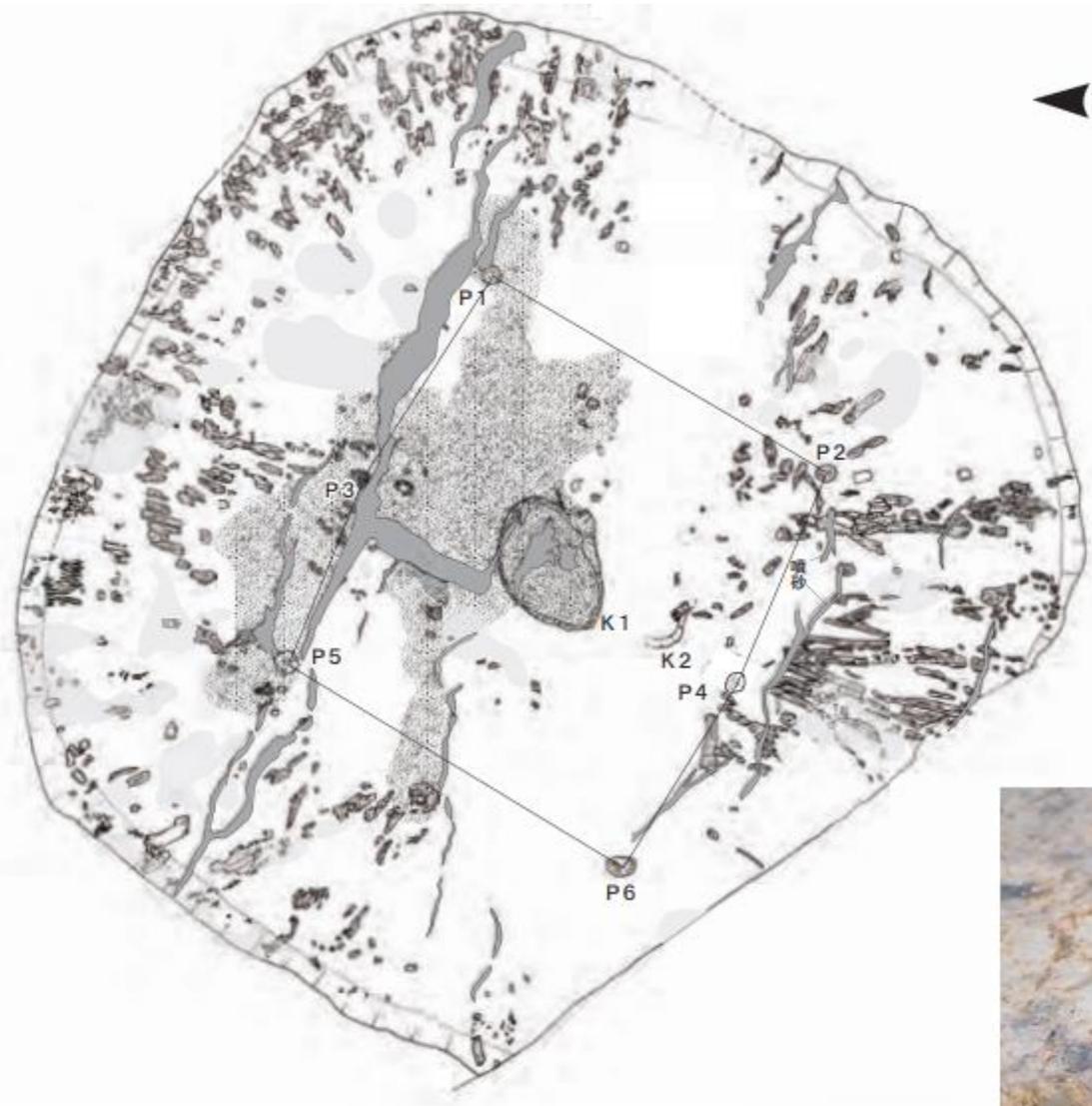


第136図 岩坪岡田島遺跡 遺構実測図
 地帯市跡 拾捌九 (SX10) 踏砂

高岡市岩坪岡田島遺跡の地割れ



高岡市手洗野赤浦遺跡
の噴砂
(上) 噴砂の断面



高岡市下老子笹川遺跡の噴砂

弥生時代後期の縦穴建物が地震によって倒壊し、その後焼失したと考えられる。

となみ散居村を学ぶ

< 第 3 回 >

・期 日 令和7年8月9日(土) 13時30分～15時00分

・テーマ ～となみ散居村のまちづくり資源～

「 考古学が立証する富山県西部の地震歴 」

・講 師 (公財)富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査課 副主幹

越前 慎子 氏



高岡市開醇大滝遺跡
石組井戸を引き裂く噴砂の砂脈



小矢部市五社遺跡
地震により水平方向にずれた井戸



高岡市手洗野赤浦遺跡
安政飛越地震による噴砂

1 講座趣旨

砺波平野の散居村および周辺における歴史、文化、地域社会の現状などに関する学びを通し、地域理解を深めるとともに、全国に誇りうる散居村の魅力を発信し、ついでには、望ましい形の景観保全と活性化につなげる。

2 後 援 砺波散村地域研究所

3 会 場 となみ散居村ミュージアム情報館・研修室

4 講師紹介 昭和 42 年 高岡市生まれ
平成 2 年 富山大学人文学部人文学科卒
同 年 財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査課に勤務
平成 28 年 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（出向 1 年間）
令和 2 年 公益財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査課
これまでに、県内の大規模発掘調査に従事する。
特に、多くの地震痕跡を発掘し、分析し、古文書も参考に地震痕跡の実年代を比定するなど、地震考古学にもあかるい。

5 お知らせ (1) 受講は事前申し込み制とします。
(2) 受講料 500 円の講座では、お一人、年間通算 2,000 円を上限とします（つまり、講座 5 回目以降の受講は無料となります）。
なお、見学会等の参加料は別枠とし、その都度、参加料をお知らせします。

6 次回以降の講座計画（11 月まで。日程・内容は変更する場合があります。）

期 日	テ マ (○は受け付け中)
9 月 2 0 日 (土)	○ 農業土木が支えた砺波平野の開発史 砺波郷土資料館学芸員 清水 麻美 氏
9 月 2 7 日 (土)	※ 庭木剪定講習会（座学と実習）
1 0 月 1 1 日 (土)	○ 万葉集から読み取る 大伴家持のとなみ野 高岡市万葉歴史館 図書情報課長 関 隆司 氏
1 0 月 1 9 日 (日)	※ 雪吊り講習会（実習）
1 1 月 8 日 (土)	猛将 木曾義仲 ～俱利伽羅峠に思いを馳せて～ 小矢部市観光課長 船見 幸広 氏

※は、受講料は 1,000 円となります。

<案内> 砺波散村地域研究所 第 87 回秋季例会

1 0 月 1 8 日 (土)	講 演 講 師：文化庁調査官 鈴木地平 氏 研究発表 発表者：土生居弘氏 白江秋広氏 富大生等
-----------------	--